



Via Latina 22

2022年6月 312号

総本部よりのお知らせーマリア会

| | |
|------------------------------------|---|
| インド従属地区での初誓願 | 1 |
| シャミナード国際神学校での奉仕職選任式 | 2 |
| 総長評議員会の韓国地区への視察訪問 | 3 |
| 総長評議員会の日本地区への視察訪問 | 4 |
| SERAFIN TABERNERO 若き信徒マリアニスト | 5 |

インド従属地区での初誓願



左より：Binod Kerketta士, Amit Dungdung士,
Sunil Lakra士 とSushil Minz士

2022年5月1日、Amit Dungdung士、Binod Kerketta士、Sunil Lakra士そしてSushil Minz士の4名がインド従属地区のマリアニスト修道者として初誓願を宣立しました。誓願式はジャイプールのニルマル・ディーブ 聖堂にて執り行われました。式典は午前10:30にミサ聖祭と共に始まりました。司式司祭は従属地区長、Sudhir Kujur師でした。SMとFMIの会員、ランチャーのMLCメンバー、そし

てニルマル・ディーブ近郊の修道者たち、そして誓願者の家族メンバーが列席しました。約180名の人が出席しました。

説教の後に誓願式が行われ、Sudhir Kujur師が管区長の代理として彼らの誓願を受け入れました。教育部長、Sukrit Tirkey士も出席していました。ミサの祭儀は午後1時頃終了し、全員が大食堂に集まり、そこで初誓願者を祝いました。彼らはケーキカットを行い、全員に美味しい食事が供されました。昼食後、初誓願者の家族メンバーと他の参列者が夕方帰路に就くまで、全員、夕暮れまでの長い間、伝統的な部族ダンスを踊っていました。

シャミナード国際神学校での奉仕職選任式

5月27日、Via Latina 22の柱の聖母聖堂にて奉仕職の選任式が行われました。神学校と総本部の2つの共同体がこの式典に参加しました。神学生4名が奉仕職に選任されました：祭壇奉仕者として José Luis González(メキシコ)、朗読奉仕者としてGatien Messi Loubiya (コンゴ、ブラザビル)、Frantzy Perier (ハイチ、フランス)、そしてShowraiah Ravulapalli (インド)です。総長、André Fétis師が選任式を執り行いました。その後テラスにて喜びの会食がなされました。



左より：José Luis González, Gatien Messi Loubiya,
総長André-Joseph Fétis, Frantzy Perier と
Showraiah Ravulapalli

朗読奉仕職と祭壇奉仕職は信徒の奉仕職と言えますが、教会はこの二つの奉仕職を司祭職へ向かう養成過程に含めています。André Fétis師はその説教の中で、これらの奉仕職はシノダルの歩みにおける教会の奉仕であると強調しました。この歩みの間、私たちは全員、世界にキリストを宣べ伝え、キリストを現存させる使命を果たすため、互いに耳を傾け、互いに助け合います。

私たちはこれら4名の兄弟たちが辿っている養成コースについて神に感謝します。私たちは、彼らが受け入れた召命に応じて成長し続けるよう、彼らを聖霊とマリアの母なる愛に委ねます。

総長評議員会の韓国地区への視察訪問

アジアでのCovid-19 感染症の再拡大にもかかわらず、教皇庁と関係大使館の特別な助けをかりて、総長評議員会の4名のメンバーは長く待ち望まれた韓国と日本への視察訪問を実施することが出来ました。韓国地区への視察訪問は2022年4月21日の到着から始まり、2週間継続しました。訪問はソウルの地区本部共同体にて開始されました。



モッコマリアニスト高校 韓国 モッコ

韓国地区は3つの共同体を有しています。ソウルとインチョンは韓国の北西地域で黄海の側にあり、それぞれが近距離にあります。モッコは同じく西海岸にあります。インチョンでは、マリア会は1つの小教区と大きな老人ホームを有しており、この老人ホームは毎年、国内の優秀な施設の1つとして評価されています。モッコでは、マリアニスト高等学校が共同体の主要活動の場です。ソウルでは、マリアニストセンターにおいてマリアニスト家族のための多くの活動と他の司牧的奉仕活動が行われています。



マリアニスト聖家族小教区に集まったSMとFMIの修道者たち

韓国 インチョン

韓国地区は22名のメンバーを有し、その平均年齢は58歳です。これは比較的若い年齢層なので、現在のダイナミックな奉仕活動のための豊かな活力と可能性があります。総長評議員会全員はソウルのFMI共同体を訪問し、また、韓国にあるマリアニスト家族の3つの枝との交流の夕べを過ごす喜ばしい機会を持ちました。同時に、言語の障壁、韓国社会にみられる緊張、そして聖職者主義に傾きがち教会文化などによって示される懸念もあります。これは確かに韓国のマリア会にとっての挑戦ですが、マリアニストのカリスマと伝統は、福音宣教に献身し、すべての生活身分を尊重し、また各自の貢献を正しく評価する教会への証しとなるために特に適しているように思われます。

総長評議員会は韓国の兄弟たちからの心のこもった兄弟的な歓迎を受け、この地区での大変うれしい滞在となりました。この地区の兄弟たちを祈りで支えましょう！

総長評議員会の日本地区への視察訪問

韓国への訪問後、すぐに総長評議員会は日本での18日間の視察訪問のため東京に飛びました。韓国と同様、日本には厳しいCovid-19条項があり、それゆえ、入国前、入国中、および入国後に多くの準備とプロセスが要求されました。しかしながら、お蔭様で全てがうまくいき、総長評議員会と日本の会員たち共々神に感謝しました。



COVID-19のソーシャル・ディスタンス基準のため総長評議員会の生徒たちあてのプレゼンは学園聖堂より各教室にストリーミングされた

日本地区は28名のメンバーを有し、その平均年齢は77歳です。多くのメンバーが引退していますが、この地区はまだ4つの大きな学校を運営しており、マリア会のメンバーがそれぞれの学校の理事長を務めています。これら学校は東京、札幌、大阪そして長崎にあります。これらの学校はとて名高く、全国的に長期に渡って高い評価を得てきました。日本のカトリック信者数は人口全体の比率としては非常に少数です。従って、私たちの生徒と彼らの教師の大多数はカトリック信者ではありません。韓国と同様、学業の成功に向けて大変強い緊張があり、時として司牧活動のためには時間がわずかしか、あるいは全く残っていません。とはいえ、それぞれのマリアニスト学校では、マリアニストのアイデンティティと、福音によって導かれる文化を造り上げるために努力が優先されています。



小学生に話しをする総長André-Joseph Fétiș師
暁星小学校 日本 東京

総長評議員会メンバーは東京大司教と教皇庁日本大使を訪問する機会を持ちました。この両者から大いに歓迎され、そして勇気付けられました。彼らは日本全国でのマリアニストの存在とその活動が深く認められていることを表明しました。彼らは特に若者のためのこの仕事の重要性を強調しました。

勿論、総長評議員会は共同体の各々で受けた熱烈な歓迎に感謝しました。韓国においてと同様、私たちは特に通訳として奉仕された人たちに感謝しました（日本での主任通訳、David Herbold士そして韓国でのThomas Park士）。彼らと彼らを支えたほかの人たちがいなければ、このような満足な訪問を成し遂げるのは容易でなかったでしょう。私たちは日本のマリアニストのため、そして彼らの宣教活動のため祈りを続けます。

SERAFIN TABERNERO 若き信徒マリアニスト

“神はすべてのものを超えておられ、私の生涯に意味をお与えになります”

この記事はマリア会が推進中かあるいは推進計画がある列福調査のいかなるものにも該当しません。私たちはここに、Serafin Taberneroに関する証言を紹介します、なぜならマリアニスト家族にこれを知らせる立派な理由があると思うからです。何よりも、それは信仰を真剣に受け止めそれを自分の生活の中心に据えた一人の若者の模範なのです。それに加え、彼は、信徒マリアニストカリスマの中に、家庭環境の中で受け取った深い信仰体験を強めそれをよい方向へと導きながら、自分を1人の人間、一人の信仰者として短時間のうちに成長させてくれる”霊的家庭“を見出しました。彼の短い生涯は真に実りの多いものでした、なぜなら、彼を知る人々にとって、彼は神の中に人生の意味を見出すための強い励みであったし、励みであり続けるからです。また彼を知らせることでこの道に倣うほかの多くの人を勇気づけることが出来ます。この報告は彼と同じく信徒マリアニストであり、重い病で死去したSerafinの兄弟、Sebastián Taberneroによって書かれた書籍に基づいています。本の題名は、「今日、私は神の子供になれます。1人の若い信徒の充実した生涯」です。



Serafinは1959年5月27日、スペイン、バレンシアで生まれました。彼は1984年8月17日、25歳のとき同じ都市で交通事故にあって亡くなりました。彼はバレンシアの柱の聖母高校の生徒でした。彼は土木工学を学び、学業が終了すると直ぐにバレンシア港で仕事を始めました。1982年、この都市にマリアニスト・フラテルニテが創設された時、彼はその最初のメンバーの一人でした。後に彼はバレンシアゾーンの全フラテルニテの初代責任者に選ばれました。

Serafinは学業においても仕事においても非常に聡明で学問上も大変優秀な人物でした。その当時彼の職業は、それに就くのが最も難しい仕事の一つと見られていました。彼の若さと技術者として働いた短い期間にもかかわらず、彼は熟達した技術者として早くもその地位を築きました。それに加え、彼を知る人たちは、人間関係を築く彼の能力、彼の理解力、彼の謙虚さ、そして彼の生き生きとした快活な性格を強調します。彼は人生を精一杯生きるのを望む情熱ある人物でした。そしてSerafinはこの願望を他の人たちに伝える天性のリーダーでした。

一人の卒業生として、彼は学校の司牧活動に関わるようになりました。彼は堅信の要理教師であり、生徒たちのために組織された黙想会の指導者であり、また若い人たちの祈りのグループの参加者でした。彼はマリアニストの修道共同体との緊密な関係を保っていました。マリアニスト修道者がフラテルニテを立ち上げる提案をした時、彼は熱心にこの計画に参加しました。Serafinは間を置かずフラテルニテのカリスマと力強い推進力とに共鳴し、自分の信仰を深く、徹底的に生きるために探していた道をそこに見いだしました。彼は種々の会議や活動において信頼でき、大きな影響を与える存在でした、そして彼の「個人の生活プラン」は自分のルーツを深めるという方向において持続する霊的緊張を反映しています。このことの一例として、彼の死の数か月前に「個人的計画」と書き記された彼の最後の個人的メモの一部を紹介します。

私の人生が実りあるものとなりますように。それを達成するためには、精力的な働きが必要です：

内的開放について：

人の賞賛を忘れて、私が実行できる徳を成し遂げることに目を向けること。この世の物事にしがみつかないこと、そこには幸せは在りません。

修行について：

自分自身を大切にすること、私の最大限の身体能力を引き出すこと、そのことはまた自分自身を他者に捧げ、彼らとの関わることのできる重要な部分でもある。

祈りについて：

なぜなら、私の命が憩い、何か確かなものが確立され得る唯一の基礎、それはあなたですから。

仕事について：

人は努力によってのみ、価値ある人になることができ、そしてそれが社会への最も大きな貢献です、なぜなら、私は大半の時間をその目標に捧げるからです。それに加え、探求と友情というエキサイテ

ィングな体験に生きること、そしてまじめに働いて暮らすこと。

自己放棄と主に信頼することについて：

この世の物事のもつ幻想と戦え！この世の物事に自分の喜びや存在理由を置くな！神はあなたを創造され、あなたを愛しておられるのですから、神はあなたの幸せの土台におられます、そしてあなたがキリスト信者であり、神の計画に忠実である限り、あなたは“満たされた”と感じ、幸せを感じます。今日、私は真に神の子となり始めることができます。

Serafinについてのごく簡単な人物描写を、彼の仲間の一人であり、フラテルニテのメンバーでもあった人の言葉で締めくくります。これらの言葉は、この世に受肉し現存するという意味をもって生きる信仰について、雄弁にはっきりと語っています：

「彼は社会にどっぷりと入り込んだ人でした。愛である神はご自身を完全にこの世に受肉させ、そしてその完全な受肉を通してご自分の福音を広められました。Serafinはその福音宣教をほんの少し行いました。彼は“市民社会”にどっぷりと入り込みました。彼は優れた学生であり優れた勤労者でした。彼は誰とでもうまくやり、そして皆が行く場所に彼も行きました。彼の成功の一つは、他の分野の友人たちと共に、自分の仕事の面から神を証しすることでした。彼は決して自分自身を宗教的なサークルだけに限定しませんでした。時として“つまらない”ように見える宗教的なコミットメントとは対照的に、Serafinはその変わらぬほほ笑みに表れる深い喜びをもってそのコミットメントを生きていましたが、わたしはそのほほ笑みを自分の中に神を宿している人の幸せから来ると思っていました。結果として、その幸せからさらに多くのものが続きました：すなわち、親しみやすさ、親切、他のために役立つこと、謙虚さ、そして全てのことを情熱をもって行なうこと、などです。彼はこの情熱を同じ計画と一緒に関わる私たちに伝えました。」

福者 Guillaume Joseph Chaminade への祈りの意向



次の2名の病気治癒のために、九日間の祈りを福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードに捧げるようマリア会員と共同体にお願いします。

Rudolf Plötzeneder 士、Rudolfはオーストリア、グライジングホーフのシャミナード共同体のマリア会員で、かなり進行した膵臓癌で苦しんでいます。彼は外科手術を受け、今は化学療法の治療を受けています。これはオーストリア・ドイツ地区のAlfred Eigner 士とマリアニストによって申請された祈りの意向です。

Jean-Guy Pannatier 士、スイス、フリーブルの共同体のマリア会員で悪性腫瘍に侵されています。これはスイスの地域共同体の責任者、Leo Müller 師によって要請された祈りの意向です。

尊者 Faustino Pérez-Manglano への祈りの意向



私たちは24歳のMatteoの病気治癒のため、尊者Faustino Pérez-Manglanoにノベナの祈りを捧げるようマリア会員とマリアにスト共同体にお願いします。2021年の夏に受けた事故の後Matteoは四肢麻痺になり手の動きを失いました。その上、食道の深刻な怪我で食べることが出来ず、食物はチューブを通して直接胃に流し込みます。イタリア、ローマのマリアの御名小教区共同体のマリア会員Antonio Collicelli師から申請された祈りの意向です。

最近の総本部通信

- 訃報：17-18号
- 5月15日：通信№1：2022年10月のマリアニスト教育活動についてのオンライン会議のための登録と事前準備作業、教育局長、Maximin Magnan士から3か国語で全マリア会員に送付

総本部日程

- 6月5~10日：教育局長、Maximin Magnan士がニューヨークで開催されるカトリック教育国際機構の世界会議に出席

メールアドレスの変更

- Christophe Mbonde士 (IV) : eluchristophe@gmail.co